

The 1st World Soft Tennis Club Champions Cup

審判委員会より

- 1 競技は（公財）日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」および大会要項に従って行います。
- 2 ベンチは各会場とも会場図の右側（北側）が番号の小さいチームとします。
- 3 予選リーグと順位トーナメントは相互審判となります。
決勝トーナメントは本部で審判を行います。
- 4 対戦の流れは【団体戦進行の流れ】を確認して、スムーズに行ってください。
- 5 審判をするにあたり【審判進行の流れ】、【審判時の注意事項】を確認して、適切に任務にあってください。
- 6 進行によっては2面展開、3面展開もあり得ます。その場合、ベンチは中央に位置してください。
- 7 選手は見ている人に感動を与えられるようフェアプレーを心がけてください。
- 8 監督や応援している人は、選手を尊重しながら、選手が前向きにプレーができるような声かけをしてください。

【団体戦進行の流れ】

- 1 各チーム、監督と選手（オーダー順）はコートに整列してください。
- 2 番号の小さいチームの監督または代表者が対戦開始の進行をしてください。
※海外のチームと対戦するときは日本のチームが進行してください。
- 3 両チームともここでオーダーを提出し、選手を確認してください。
- 4 監督または代表者がジャンケンをし、勝者は正審・副審・正審の順で出るか副審・正審・副審の順で出るか決めてください。
- 5 監督または代表者がボール選択権のジャンケンをし、勝者は使用球を決めてください。
- 6 あいさつをして対戦を始めてください。

- 7 空いている時間を利用して、採点票に名前を記入してください。
- 8 3マッチ終わったら、番号の小さいチームの監督または代表者が対戦終了の進行をしてください。
- 9 採点票を確認し、勝者の監督または代表者はサインをして、採点票と使用球（2球）を各会場の本部へ持ってきてください。また、次の対戦の採点票と新球を対戦していたコート届けてください。
- 10 対戦が終了したら、進行表を確認し、次の対戦に入ってください。

【審判進行の流れ】

1 あいさつ・トスの流れは以下ようになります。

(1) 団体戦

①各チームがベースラインに整列したらネットのそばに集合させる。

「集合」（コールとともに手で合図）

②挨拶

「ただ今から〇〇（県）〇〇（チーム名）対□□（県）□□（チーム名）の試合を始めます。礼。」

③オーダーの確認

「オーダーの確認をします。」

※両チームの監督または代表者で両チームの選手を確認する。

④マッチの開始

「第1マッチのプレイヤーは準備を。その他の方々はベンチにお戻りください。」と伝え、マッチを始める。

(2) 各マッチ

①正審・副審は所定の位置（ネットを挟んでサイドラインの外側）に並び、各ペアがサービスライン外側に整列したらネットのそばに集合させる。

「集合」（コールとともに手でも合図し、正審・副審はサービスコート中央、選手と1.5m位の位置まで進む）

②挨拶

「ただ今から〇〇(チーム名)〇〇・〇〇ペア対□□(チーム名)□□・□□ペアの試合を始めます。礼。」

※プレイヤー同士、その後正審・副審とあいさつを交わす。

③「トスをしてください」

※副審が行い、正審が採点票に記録する。

※正審は採点票にトスの結果を記入。

※サイドの選択権のあるチームに○をつけるのを忘れないこと。

※ラケットを回すとき、自分のコートで回せばよい。また、下にラケットを置かせない。

④「マッチ前の練習を行ってください」と伝え、マッチの準備をする。

※サイドを変える場合はここで変える。

※正審は審判台に座る。副審は選手に使用球を渡し、審判台の反対のネットポスト外側約60cmの位置に立つ。

⑤正審、副審は練習開始から45秒を計り、時間になったら正審は「レディ」のコールをする。副審も45秒回り、時間になったら手をあげて正審に練習終了の合図を送る。

※ベンチに戻ったり、なかなかマッチを開始しなかったら正審は「レッツプレー」をかける。

⑥「サービスサイド〇〇(チーム名)〇〇・〇〇ペア、レシーブサイド□□(チーム名)□□・□□ペア、セブン(ファイブ)ゲームマッチ、プレーボール」とコールしマッチを始める。

2 試合終了時は以下の手順で試合を終わらせてください。

(1)各マッチ

①マッチ終了

「ゲームセット」とコールし、正審は直ちに審判台を降りる。あいさつを済ませてから採点票を完成させる。副審は使用球を回収し、選手・アンパイヤーともネットのそばに集合する。

② 「 4 (3) 対〇で〇〇・ 〇〇ペアの勝ちです。礼。」

※採点票を完成させる。

(2) 団体戦

①すべてのマッチ終了後、正審・副審は所定の位置(ネットを挟んでサイドラインの外側) に並び、各チームがベースラインに整列したらネットに集合させる。

「集合」(コールとともに手でも合図し、正審・副審はその場で待つ)

② 「〇対〇で、〇〇(県) 〇〇(チーム名) の勝ちです。礼。」

※採点票に勝者チームの監督にサインをもらう。

※採点票と使用球を渡し、本部へ持っていくよう伝える。

③ 「荷物を持って退場し、次の対戦の準備をしてください。」

【審判時の注意事項】

1 正審は姿勢を正しくし、足を組んだり前かがみになつたりしないようにしましょう。

2 正審のコールは大きな声で的確に、正しい表現で行いましょう。

※間違いやすい例

○アウト → ×バックアウト

○レッツプレー → ×タイムズアップ

○ネットタッチ → ×タッチネット

○ネットオーバー → ×オーバーネット

○デュース → ×スリーオール(シックスオール) デュース

○デュースアゲン → ×アゲイン

○ゲームカウントスリーオールファイナルゲーム → ×ファイナル

○ゲームセット → ×ゲームオーバー など

3 副審は敏速かつ的確に動き、サービスの判定時以外はネットポストの後ろ約 60 c m の定位置に直立し、しっかり判定しましょう。

4 正審、副審それぞれの判定区分を侵さず、連携を密にして判定しましょう。

※ベースラインのアウト判定は正審です。副審はサインしないようにしましょう。

※サービスセンターラインのフォールの判定は正審です。副審が判断してサインしないようにしましょう。

※サービスが正しくコートに入った場合、副審はインのサインは出しません。出すとプレーヤーがフォールと勘違いしてしまうので気をつけましょう。

5 インプレーを停止するサイン又はコールを副審が誤ってしまった場合は、正審は直ちにプレーを中断させるコールを行いましょう。

①副審が判定区分を侵した場合は「タイム」。

②副審が間違った判定をした場合、正審は「タイム」をコールして、副審のサイン又はコールがプレーに支障を与えたと判断した場合はノーカウント（レシーブを終わる前はレット）とし、プレーに支障がなかったと判断した場合は、判定の訂正を行い通告しましょう。再開時は「ノータイム」とコールし、続けてポイントをコールしましょう。

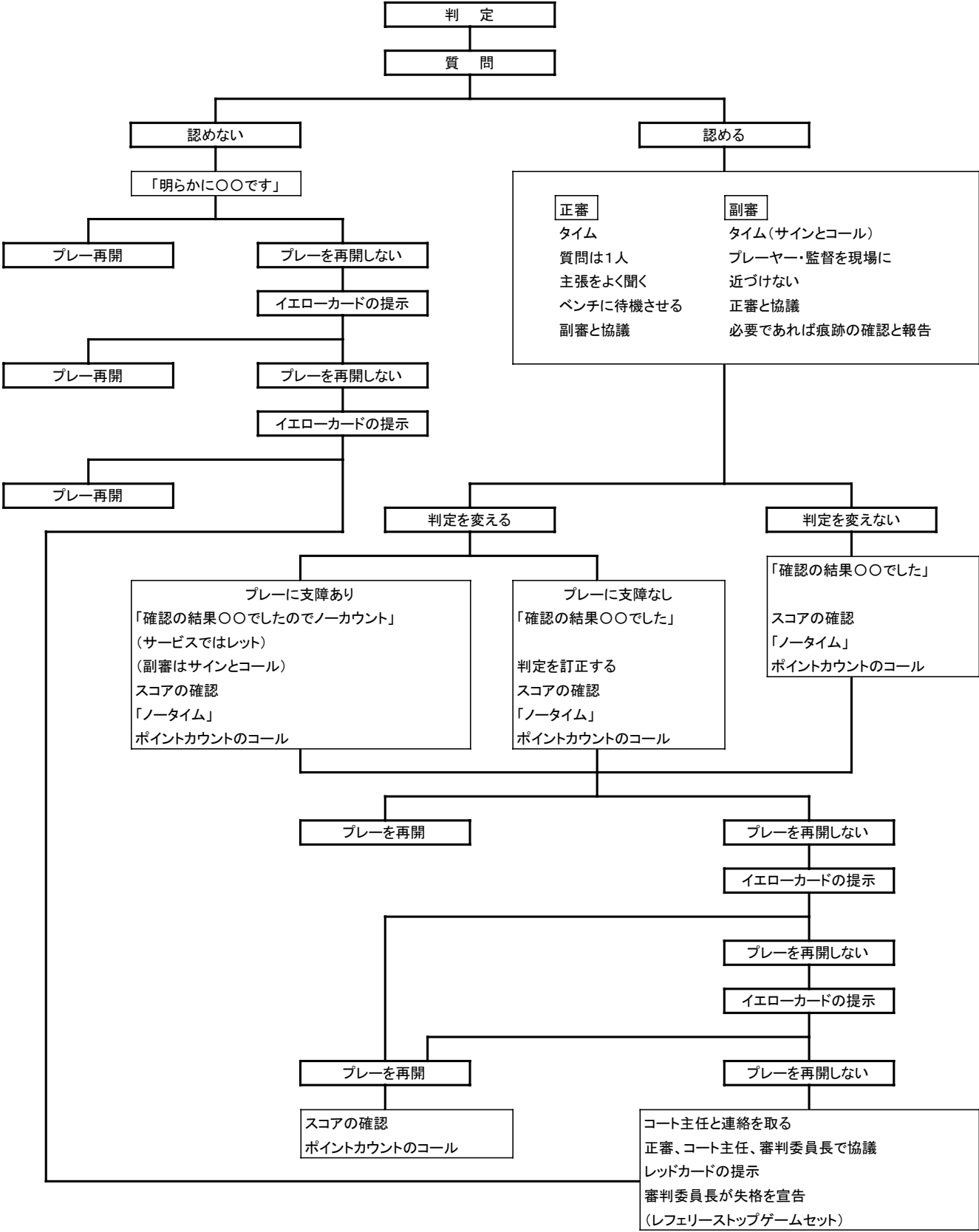
6 アンパイヤーはマッチ中の判定等についてプレーヤー（監督を含む）から質問があった場合は、内容を確認の上、再度判定の結果を正審から通告してください。以後、当該通告に関するプレーヤー（監督を含む）からの問い合わせは異議とみなしてください。

※質問に対して判定に自信があるときは、対応せず即時再判定で構いません。

※ボールの落下点を確認する場合はアンパイヤー自身が行い、プレーヤー等を落下点に近寄らせないでください。

※判定を誤ってしまったのであれば、勇気を持って判定を訂正しましょう。

質問に対する対応手順フローチャート



【全体を通して】

- 1 ジュニア審判マニュアルをよく読んでおきましょう。
※日本ソフトテニス連盟のホームページからダウンロードできます。
- 2 エアポンプは各会場の本部にありますので、空調が必要な場合は両チームで確認してから持ってきてください。
- 3 およそ3面に1人、コート主任がいますので、困ったケースが起きたら直ちに相談してください。
- 4 イエローカードを提示するような場面をつくらないようにしましょう。
- 5 アンパイヤーもフェアプレーを心がけ、大会成功にご協力ください。